短期予報解説資料　２０２６年１１月１７日０３時４０分発表

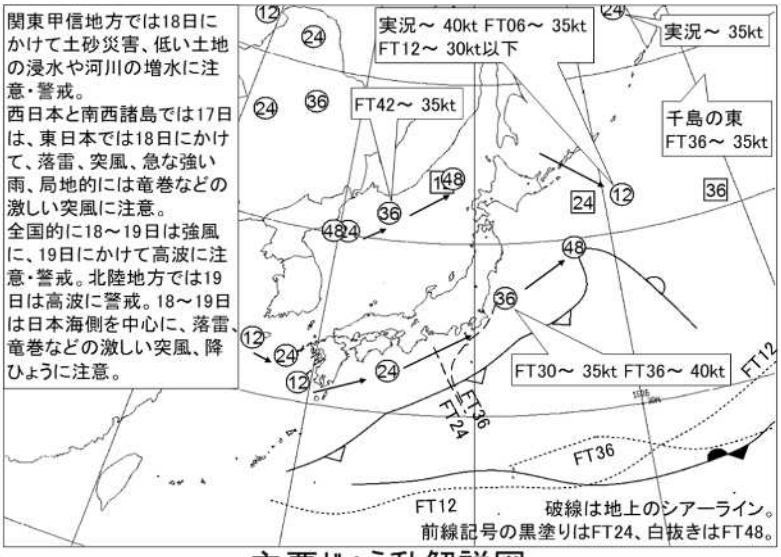
気象庁

１．実況上の着目点

① 千島近海に進んだ小低気圧はトラフが追いついて衰弱中。一時非常に強い風を観測した所もある北海道地方の強風も峠越え。

② 南西諸島付近まで南下している亜熱帯ジェットと結びついて、与那国島や石垣島高層観測で暖気移流プロファイル。先島諸島近海で降水域がまとまり南側で非常に激しい雨を解析。

③ 高気圧の西側となって暖気移流域に対応する気圧の谷が九州の周辺の海域にあり、非常に激しい雨を解析。東海道沖にも気圧の谷の対流雲列が停滞。



主要じょう乱解説図

２．主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 17 日は、1 項①のトラフが抜けて高気圧が北海道を南東に移動。北日本はこれに覆われる。一方、500hPa5700～5820mのトラフが接近し、午後には西日本～南西諸島に到達。トラフに対応して、1 項②の降水域は沖縄近海を東進。下層暖湿気の影響で大気の状態が非常に不安定で、雷を伴って強い雨の降る所がある。また、トラフの接近に伴い九州周辺や西方の気圧の谷で発生した低気圧が東へ進む。下層暖湿気により大気の状態が不安定なところ、上層トラフが地上の気圧の谷に追いつくのに伴い非常に不安定となり、雷を伴って激しい雨の降る所がある。東海道沖の気圧の谷付近でもトラフの接近に伴い降水域が北東側に拡大し、下層暖湿気が北側の寒気に乗り上げる沿岸域やその南側で大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴って激しい雨や非常に激しい雨の降る所がある。関東甲信地方では 18 日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水や河川の増水に注意・警戒。西日本と南西諸島では 17 日は、東日本では 18 日にかけて、落雷、突風、急な強い雨、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。

② 18 日にはスケールの大きな寒冷渦がまとまり、中心がアムール川中流を南東進。19 日には日本海北部に進み、日本付近は深いトラフの中に入る。トラフの東側で低気圧が急速に発達し、大陸からは高気圧が張り出して、20 日頃にかけて西高東低の冬型の気圧配置が強まる。19 日には、全国的に風が強まり、西～北の風が強く～非常に強く吹き、海は波が高くなり、しけや大しけとなる所がある。全国的に 18～19 日は強風に、19 日にかけて高波に注意・警戒。北陸地方では 19 日は高波に警戒。また、500hPa 5340m付近のトラフに対応して小低気圧が 18 日夜から 19 日に日本海から北日本を通過し、南西にのびるシアーラインの後ろから寒気が流入。19 日夜には 850hPa-6℃の寒気が東北地方まで南下し、日本海に収束帯（JPCZ）が形成される。19 日は、北日本では雪や雨。東～西日本では日本海側中心に雨となるが、山地では雪に変わる所がある。小低気圧、シアーライン付近や収束帯では大気の状態が非常に不安定。北～西日本では日本海側を中心に、落雷、竜巻などの激しい突風、降ひょうに注意。

３．数値予報資料解釈上の留意点　総観場はGSMを基本とし、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

４．防災関連事項［量的予報等］[1] ①雨量(06 時からの 24 時間)：伊豆諸島 150、関東 120mm。②波浪(明日まで)：北海道・東北 4、東・西日本広く 3m。

５．全般気象解説情報発表の有無　予定はない。

[1]量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。